

歴史年表

時代	西暦	和暦	事項	地区
原始時代			能義・濡枝・御座野・松葉・倉知の縄文遺跡	中川辺
古代			椎ノ木・能義・濡枝・倉知の弥生遺跡	上川辺 西栃井 中川辺 比久見
			天池・神堂・道塚・火塚・天徳・鵜飼・神坂・小田・神手・ 上ノ番・東小学校の古墳	下川辺 比久見 上川辺
			泳の宮から乙姫移住 景行天皇川辺に巡幸 壬部（生部）設定	上川辺 上川辺 上米田
奈良時代	七二三	和銅六	吉蘇路開設（川辺村↪吉蘇村）	川辺

時代	西暦	和暦	事項	地区
奈良時代	七二三	和銅年	飛騨路開設、加茂駅設置	下麻生
	七二一	養老五	平城京跡から木簡出土	上米田
平安時代	八一八	弘仁九	阿夫志奈神社創建	上川辺
	九〇一	延喜年	太部神社創建	比久見
	九〇七	延喜七	延喜式神名帳に阿夫志奈神社・太部神社記載	上川辺
	九三四	承平四	和名抄に賀茂郡一二郷記載、川辺・生部・米田・駅家郷	比久見
	九三八	天慶年	俳原観音寺創建	川 辺
	九三九	天慶二	源満仲、下麻生に一夜の陣を敷く多田姓与えられる	上米田
	九三九	天慶二	美濃国神名帳に阿夫志奈神社・大須祢神社・加茂神社・太部神社・ 県神社記載	下麻生
			福 島	
			比久見	
			下麻生	

時代	西暦	和暦	事	地区
平安時代	一一九〇	後期	米田荘（京都西芳寺領）のはじまり	上米田
鎌倉時代	一三〇〇	後期	河辺荘（近衛家領）のはじまり	川辺
南北朝時代	一三五〇	初期	八坂山城を築く	中川辺
	一三五〇	観心一	高師直、権現山城を築く	比久見
室町時代	一四五二	享徳一	斎藤利永、河辺荘・米田荘の領主となる	川辺
	一四七〇	長祿年	普門庵創建	上米田
	一四九一	延徳三	下吉田郷より薄紙を献上	下麻生
	一五〇五	永正二	真蔵院創建	下麻生
	一五〇五	永正二	麻生寺創建	下麻生
	一五〇五	永正二	肥田兵部軌吉、福島城を築く	福島
	一五一九	永正一六	土岐政房、米田館で死去	福島
	一五二一	大永年	福島政家、尾張へ移住	福島
	一五二一	大永年	武市善兵衛、川辺へ移住	上川辺
	一五二三	大永三	養瑞寺開基	中川辺

時代	西暦	和暦	事項	地区	
室町時代	一五二八	享禄一	下麻生綱場設置	下麻生	
	一五三七	天文六	妙雲寺開基	中川辺	
	一五四〇	天文九	三木一族、米田へ進行	上米田	
	一五五八	永禄年	斎藤利三、川辺郷に蟄居	中川辺	
	一五六〇	永禄三	曹源寺開基	石神	
	一五六〇	永禄三	肥田玄蕃、米田城を築く	福島	
	一五六四	永禄七	森蘭丸、阿夫志奈神社へ幕を寄進	上川辺	
	一五六四	永禄七	大嶋光義、織田信長に仕える	川辺	
	一五六五	永禄八	県神社創建	下麻生	
	一五六七	永禄一〇	下麻生綱場に「樽座」設置	下麻生	
	一五六七	永禄一〇	肥田長寿丸、下川辺城を攻める	下川辺	
	安土桃山時代	一五七三	天正一	妙楽寺開基（夢窓国師の開基とも伝えられる）一三四六年	比久見
		一五七三	天正一	常善寺開基	下吉田
		一五七三	天正一	稲葉彦六、下麻生城に入る	下麻生
一五七五		天正三	加茂神社再建	福島	

時代	西曆	和曆	事項	地区
安土桃山時代	一五八二	天正一〇	森長可、米田城へ侵攻、下麻生城にも進出	福島
	一五八二	天正一〇	大嶋光義、豊臣秀吉に仕える	下麻生
	一五八四	天正一二	生蓮寺（桑の木観音）創建	川辺
	一五九二	文禄一	大嶋光義、征韓の役により九州に出陣	比久見
	一五九二	文禄一	龍洞寺開基	川辺
	一五九四	文禄三	禅原寺開基	比久見
	一五九六	慶長年	金昌寺開基	西栃井
	一五九七	慶長二	善教寺開基	上川辺
	一六〇〇	慶長五	大嶋光義、東軍として関ヶ原役に従軍	川辺
	一六〇〇	慶長五	武市善兵衛、米野で戦死	上川辺
	江戸時代	一六〇三	慶長年	川辺地方各村、幕領地となる
一六〇三		慶長八	広林寺開基	下川辺
一六〇三		慶長年	下麻生湊開設	下麻生
一六〇三		慶長年	石神湊開設	石神

時代	西暦	和暦	事項	地区
江戸時代	一六〇四	慶長九	大嶋光義死去	川辺
	一六〇四	慶長九	大嶋光政、川辺大嶋氏となる	川辺
	一六〇七	慶長一二	太部古天神社再建	西栃井
	一六一五	元和一	下飯田・福島・比久見・下吉田・下麻生村、尾張藩領となる	中川辺
	一六二二	元和八	初代大嶋光政死去	上米田
	一六二四	寛永一	大雄寺開基	下麻生
	一六二四	寛永年	臨川寺開基	下麻生
	一六三九	寛永一六	関大嶋氏領地、川辺大嶋氏の預り地となる	西栃井
				下川辺
		一六四四	寛永二一	春日神社再建
				上川辺
				鹿塩
				鹿塩

時代	西暦	和暦	事項	地区
江戸時代	一六五〇	慶安三	二代大嶋義唯死去	中川辺
	一六五八	万治一	星神社（保志乃）創建	西栃井
	一六六一	寛文一	長昌寺再建	下吉田
	一六九〇	元禄三	三代大嶋義近死去	鹿塩
	一六九四	元禄七	権現山入会論争はじまる	中川辺
	一七〇七	宝永四	能古山入会論争はじまる	上米田
	一七一二	正徳二	太田宿助郷制度はじまる	西栃井
	一七二一	享保六	権現山入会論争終わる	中川辺
	一七二三	享保八	四代大嶋義也死去	上米田
	一七二六	享保一一	高山代官所上川辺役所設置	中川辺 西栃井 上川辺

時代	西曆	和曆	事項	地区
江戸時代	一七二八	享保一三	栃井神社再建	西栃井
	一七二九	享保一四	高山代官所上川辺役所を下川辺村に移転	下川辺
	一七三四	享保一九	八幡神社再建	下川辺
	一七五二	宝暦二	五代大嶋義房死去	中川辺
	一七五七	宝暦七	能古山入会論争再燃	西栃井
	一七六五	明和二	飛驒川大水、栃井村被害	川辺
	一七七二	安永年	本覚寺開基	上川辺
	一七八四	天明四	加茂地方飢饉	川辺
	一七八五	天明五	白山神社再建	石神
	一七八六	天明六	飛驒川大水、福島・比久見・下吉田村被害	福島
一七九五	寛政七	六代大嶋義里死去	比久見	
				下吉田
				中川辺
				西栃井

時代	西曆	和曆	事項	地区
江戸時代	一七九八	寛政一〇	飛驒川大水、下麻生・栃井村被害	下麻生
	一八〇三	享和三	七代大嶋義和死去	中川辺
	一八〇七	文化四	天満神社再建	西栃井
	一八一四	文化一一	大谷池決壊、中川辺・栃井村被害	下飯田
	一八二二	文政五	八代大嶋義優死去	中川辺
	一八三〇	天保一	加茂地方飢饉	西栃井
	一八三〇	天保一	川辺一〇か村に寺子屋開設	川 辺
	一八三七	天保八	台風により中川辺・栃井村家屋被害	中川辺
	一八三九	天保一〇	高山代官所下川辺役所、笠松代官所へ移管（廃止扱い）	西栃井
	一八四五	弘化二	高山代官所下川辺役所復帰嘆願のため、木下半右衛門など二名江戸	下川辺

時代	西暦	和暦	事項	地区
江戸時代	一八四五	弘化二	へ向かう、下川辺役所復帰	下川辺
	一八五七	安政四	木之根橋に歌碑建立(大嶋義彬・村瀬藤城・田中大秀・山本友左坊など)	西栃井
	一八五九	安政六	雄鳥川堤防決壊、栃井村被害	西栃井
	一八六〇	万延一	神明神社再建	石神
	一八六〇	万延一	台風により中川辺村被害	中川辺
	一八六〇	万延一	高山代官所下川辺役所再び廃止	下川辺
	一八六三	文久三	雄鳥川洪水、栃井・下川辺村被害	西栃井
	一八六五	慶応一	九代大嶋義彬死去	中川辺
	一八六六	慶応二	神宮・秋葉・津島神社などのお札降る	中川辺
	明治時代	一八六八	明治一	笠松県設置、幕領・大嶋氏領を管轄す
一八六九		明治二	版籍奉還	川辺
一八七一		明治四	廃藩置県、尾張藩領は名古屋県の管轄となる	上米田
				下麻生

時代	西暦	和暦	事項	地区
明治時代	一八七二	明治五	戸長・副戸長を設置	川辺
	一八七三	明治六	岐阜県の所管となる	川辺
	一八七三	明治六	行政区画により大区・小区に分かれる	川辺
	一八七三	明治六	地租改正事業はじまる	川辺
	一八七三	明治六	徴兵令施行	川辺
	一八七三	明治六	有隣舎学校と称し、広林寺内に設置	下川辺
	一八七三	明治六	玉光舎学校と称し、禅原寺内に設置、同年貫誠舎学校に合併	西栃井
	一八七三	明治六	貫誠舎学校と称し、養端寺内に設置	中川辺
	一八七三	明治六	誠道義校と称し、金昌寺内に設置	石神
	一八七三	明治六	研承舎学校と称し、長昌寺内に設置	上川辺
	一八七三	明治六	文明義校と称し、旧役場内に設置	鹿塩
	一八七三	明治六	立身学校と称し、善教寺内に設置	下飯田
				福島
				比久見
				下吉田

時代	西曆	和曆	事項	地区
明治時代	一八七三	明治六	明倫義校と称し、大雄寺内に設置	下麻生
	一八七四	明治七	両栃井村を合併、西栃井村となる	西栃井
	一八七四	明治七	川辺郵便局開設	川辺
	一八七五	明治八	博泉舎学校を貫誠舎学校の分教場として曹源寺内に設置	石神
	一八七六	明治九	有隣舎学校を貫誠舎学校に合併	下川辺
	一八七七	明治一〇	貫誠舎学校を中川辺学校と改称	中川辺
	一八七七	明治一〇	西南の役はじまる	下川辺
	一八七八	明治一一	十代大嶋義直死去	川辺
	一八七九	明治一二	郡区町村編成法施行	川辺
	一八八〇	明治一三	納古(能古)山入会論争終わる	川辺
一八八二	明治一五	下麻生郵便局開設	下麻生	
一八八五	明治一八	中川辺駅伝組合設立	川辺	

時代	西曆	和曆	事項	地区
明治時代	一八八六	明治一九	中川辺尋常小学校と改称	川 辺
	一八八六	明治一九	鹿塩簡易科小学校と改称	鹿 塩
	一八八六	明治一九	比久見簡易科小学校と改称	比久見
	一八八六	明治一九	下麻生簡易科小学校と改称	下麻生
	一八八七	明治二〇	中川辺尋常小学校に高等科を併設	川 辺
	一八八八	明治二一	下麻生駐在所設置	下麻生
	一八八九	明治二二	下川辺・西栃井・中川辺・石神各村合併、川辺村となる	下川辺 西栃井
	一八八九	明治二二	上川辺・下麻生両村合併、麻川村となる	上川辺 下麻生
	一八八九	明治二二	下飯田・福島・比久見・下吉田各村合併、上米田村となる	下飯田 福 島 比久見

時代	西暦	和暦	事項	地区
明治時代	一八八九	明治三二	下飯田・福島・比久見・下吉田各村合併、上米田村となる	下吉田
	一八八九	明治三二	川辺・上米田駐在所設置	川辺
	一八九〇	明治三三	下麻生尋常小学校と改称	上米田
	一八九一	明治三四	濃尾大震災おこる	麻川
	一八九三	明治二六	麻生村分村、再び上川辺・下麻生両村となる	川辺
	一八九三	明治二六	上米田尋常小学校と改称	上川辺
	一八九四	明治二七	日清戦争おこる	下麻生
	一八九六	明治二九	下麻生町となる	川辺
	一八九七	明治三〇	川辺・上川辺両村合併、川辺町となる	川辺
	一八九七	明治三〇	鹿塩・川浦・甘屋各村合併、三和村となる	鹿塩
一八九七	明治三〇	川辺・下麻生郵便局で電信開設	川辺	
一八九七	明治三〇	東美銀行川辺・下麻生支店開設	下麻生	

時代	西曆	和曆	事項	地区
明治時代	一八九七	明治三〇	東美銀行川辺・下麻生支店開設	下麻生
	一八九八	明治三一	天理教東濃出張所設置	西柝井
	一八九九	明治三二	下麻生尋常小学校に高等科を併設	下麻生
	一九〇〇	明治三三	川辺・上米田・三和各村農会設立	川辺
	一九〇〇	明治三三	可児銀行川辺・下麻生支店開設	上米田
	一九〇〇	明治三三	飛騨川橋架橋	鹿塩
	一九〇二	明治三五	下麻生尋常高等小学校校舎新築	川辺
	一九〇二	明治三五	下麻生農会設立	下麻生
	一九〇二	明治三五	上米田尋常小学校に高等科を併設	上米田
	一九〇四	明治三七	日露戦争おこる	川辺
	一九〇九	明治四二	川辺尋常高等小学校校舎新築	川辺

時代	西曆	和曆	事項	地区
明治時代	一九一〇	明治四三	上米田信用購買組合設立	上米田
	一九一一	明治四四	川辺商工会設立	川辺
	一九一一	明治四四	加茂郡銀行川辺・下麻生支店開設	川辺
	一九一一	明治四四	下麻生郵便局名古屋との直通電話開設	下麻生
	一九一二	明治四五	川辺消防組合設置	川辺
	一九一二	明治四五	下麻生消防組合設置	下麻生
大正時代	一九二二	大正一	暴風雨により被害	川辺
	一九二二	大正一	上米田消防組合設置	上米田
	一九二三	大正二	川辺信用購買組合設立	川辺
	一九二三	大正二	川辺・下麻生両町電灯架設	川辺
	一九二四	大正三	第一次世界大戦おこる	下麻生
	一九二四	大正三	川辺郵便局電話開設	川辺
	一九二五	大正四	川辺図書室開設	川辺

時代	西暦	和暦	事項	地区	
大正時代	一九二〇	大正九	上米田村電灯架設	上米田	
	一九二二	大正一	鹿塩地区電灯架設	鹿塩	
	一九二二	大正一	高山線中川辺・下麻生駅開業	川辺	
	一九二二	大正二	旧山川橋架橋	中川辺	
	一九二四	大正一三	上米田図書館開設	上米田	
	一九二五	大正二四	天理教上米田・下麻生分教会設置	上米田 下麻生	
	昭和時代	一九三一	昭和六	満州事変おこる	川辺
		一九三七	昭和一二	日華事変おこる	川辺
		一九三七	昭和一二	新山川橋架橋	中川辺
		一九三八	昭和一三	川辺発電所竣工	西栃井
一九四一		昭和一六	太平洋戦争おこる	川辺	

時代	西曆	和曆	事項	地区
昭和時代	一九四一	昭和一六	小学校を国民学校と改称	川辺
	一九四四	昭和一九	名古屋六郷国民学校より学童疎開	川辺
	一九四五	昭和二〇	中国人労務者山楠地内で就労	西栃井
	一九四五	昭和二〇	終戦	川辺
	一九四六	昭和二一	農地改革実施	川辺
	一九四七	昭和二二	農地開拓地へ二〇戸入植	上米田
	一九四七	昭和二二	児童福祉法制定	川辺
	一九四七	昭和二二	学校教育法改革により六・三・三制実施	川辺
	一九四七	昭和二二	川辺・下麻生・上米田・三和各中学校設立	川辺
	一九五〇	昭和二五	文化財保護法制定	川辺
	一九五一	昭和二六	十六銀行下麻生支店廃止	下麻生
	一九五二	昭和二七	比久見用水改良工事竣工	上米田
	一九五三	昭和二八	組合立中部中学校を設置して本校とし、上米田・三和中学校を分校とす	川辺
	一九五四	昭和二九	教育委員会設立	川辺
	一九五四	昭和二九	川辺第一保育園開園	中川辺

時代	西曆	和曆	事項	地区
昭和時代	一九五九	昭和三四	町長選挙・佐藤円次郎当選	川辺
	一九五九	昭和三四	川辺第二保育園開園	下麻生
	一九五九	昭和三四	中川辺駅跨線橋竣工	中川辺
	一九五九	昭和三四	川辺警部補派出所移転竣工	中川辺
	一九五七	昭和三二	町報かわべ（広報かわべ）戦後創刊号発刊	川辺
	一九五六	昭和三一	町営住宅・飛水団地竣工	中川辺
	一九五六	昭和三一	下麻生地区・川辺町へ合併	下麻生
	一九五六	昭和三一	上米田保育園開園	比久見
	一九五五	昭和三〇	東濃信用金庫（旧豊岡・多治見）川辺支店開設	中川辺
	一九五五	昭和三〇	十六銀行川辺支店廃止	中川辺
	一九五五	昭和三〇	川辺町農業協同組合に名称変更	川辺
	一九五五	昭和三〇	上米田村・川辺町へ合併	上米田
	一九五五	昭和三〇	下麻生小学校校舎竣工	下麻生
	一九五四	昭和二九	鹿塩地区・川辺町へ合併	鹿塩
	一九五四	昭和二九	学校給食普及	川辺

時代	西暦	和暦	事項	地区
昭和時代	一九五九	昭和三四	町議会議員選挙	川辺
	一九五九	昭和三四	伊勢湾台風により被害甚大、災害救助法適用	川辺
	一九六〇	昭和三五	川辺用水改良事業完成	川辺
	一九六〇	昭和三五	工場誘致条例により、濃飛タイルKKほか誘致	下川辺
				西栃井
	一九六〇	昭和三五	国道四一号線下川辺～西栃井間開通	下川辺
				比久見
				中川辺
	一九六〇	昭和三五	町営住宅天徳・飛水団地竣工	上川辺
				中川辺
一九六一	昭和三六	下麻生小学校給食室竣工	下麻生	
一九六一	昭和三六	国民健康保健制度発足	川辺	
一九六一	昭和三六	国民年金制度発足	川辺	
一九六一	昭和三六	台風一八号により被害甚大	川辺	

時代	西暦	和暦	事項	地区
昭和時代	一九六一	昭和三六	木曾川右岸用水改良事業計画決定	川辺
	一九六二	昭和三七	中部中学校に統合して町内一校の中学校として発足	中川辺
	一九六二	昭和三七	第一保育園竣工	中川辺
	一九六二	昭和三七	川辺町民プール竣工	中川辺
	一九六三	昭和三八	第二保育園移転	上川辺
	一九六三	昭和三八	町長選挙・佐藤円次郎無投票当選	川辺
	一九六三	昭和三八	町議会議員選挙無投票	川辺
	一九六三	昭和三八	雄鳥川決壊	西栃井
	一九六四	昭和三九	飛騨・木曾川国定公園に指定	川辺
	一九六五	昭和四〇	国道四一号町内全線開通	川辺
	一九六五	昭和四〇	町営住宅・見持団地竣工	西栃井
	一九六六	昭和四一	飛騨川橋竣工	下吉田
	一九六六	昭和四一	川辺町合併一〇周年記念式典	川辺
	一九六六	昭和四一	農村集団電話開通	川辺

時代	西暦	和暦	事項	地区
昭和時代	一九六六	昭和四一	川辺郵便局竣工	中川辺
	一九六七	昭和四二	町長選挙・田原太義当選	川辺
	一九六七	昭和四二	川辺小学校校舎竣工	中川辺
	一九六七	昭和四二	下麻生町民プール竣工	下麻生
	一九六七	昭和四二	集中豪雨により被害甚大	川辺
	一九六七	昭和四二	町議会議員選挙	川辺
	一九六八	昭和四三	集中豪雨（八・一七）により被害甚大、自衛隊出動	川辺
	一九六八	昭和四三	明治一〇〇年記念式典、川辺町章決定	川辺
	一九六九	昭和四四	学校給食センター竣工	中川辺
	一九七〇	昭和四五	第一艇庫竣工	中川辺
	一九七〇	昭和四五	第一・二回全日本女子選手権競漕大会開催	中川辺
	一九七一	昭和四六	第二回大会には秩父宮妃殿下ご観戦	中川辺
	一九七一	昭和四六	第二艇庫竣工	中川辺
	一九七一	昭和四六	町長選挙・田原太義無投票当選	川辺
	一九七一	昭和四六	老齢年金（国民年金）受給開始	川辺

時代	西曆	和曆	事項	地区
昭和時代	一九七一	昭和四六	可茂消防事務組合川辺出張所設置	中川辺
	一九七一	昭和四六	上米田小学校プール竣工	比久見
	一九七一	昭和四六	町議会議員選挙	川辺
	一九七一	昭和四六	第一回町民運動会開催	川辺
	一九七一	昭和四六	木曾川右岸県営土地改良事業工事開始	川辺
	一九七一	昭和四六	農業振興地域指定	西栃井
	一九七一	昭和四六	土地改良事業着手一八年の歳月をかけて完成	中川辺
	一九七二	昭和四七	白鳥ひとつがい皇居よりこし入れ	川辺
	一九七二	昭和四七	上水道事業開始	川辺
	一九七二	昭和四七	中部中学校プール竣工	中川辺
	一九七三	昭和四八	川辺局電話ダイヤル式に切り替え	川辺
	一九七三	昭和四八	川辺大橋竣工	上川辺
	一九七三	昭和四八	町長選挙・有本九十九当選	下吉田 川辺

時代	西暦	和暦	事項	地区
昭和時代	一九七四	昭和四九	川辺町異常湧水、対策本部設置	川辺
	一九七四	昭和四九	町営住宅・比久見団地竣工	比久見
	一九七五	昭和五〇	〃	比久見
	一九七四	昭和四九	公害パトロール車配置	川辺
	一九七四	昭和四九	中国人殉難者之碑建立	西栃井
	一九七四	昭和四九	町内全小中学校無人化	川辺
	一九七四	昭和四九	全町を都市計画区域に指定	川辺
	一九七四	昭和四九	上水道事業給水条例制定	川辺
	一九七五	昭和五〇	川辺町総合計画基本構想策定	川辺
	一九七六	昭和五一	〃	川辺
	一九七五	昭和五〇	町議会議員選挙	川辺
	一九七五	昭和五〇	第一回オリエンテーリング大会開催	川辺
	一九七五	昭和五〇	第一回文化祭開催	川辺
	一九七六	昭和五一	商工会館竣工	西栃井
	一九七六	昭和五一	小学校統合三校案決定	川辺

時代	西暦	和暦	事項	地区
昭和時代	一九七六	昭和五一	ホームヘルパー配置 上水道一部通水開始	川辺 西栃井
	一九七六	昭和五一		中川辺
	一九七七	昭和五二	下麻生小学校・上川辺分校を統合し、川辺北小学校と称す	上川辺
	一九七七	昭和五二	町長選挙・長谷川仙一当選	川辺
	一九七七	昭和五二	町議会議員補欠選挙	川辺
	一九七七	昭和五二	文化財保護標柱設置	川辺
	一九七八	昭和五三	鹿塩地区を最後に全町上水道通水す	川辺
	一九七八	昭和五三	上川辺分校閉鎖、明治四三年（一九一〇）以来の歴史を閉じる	上川辺
	一九七八	昭和五三	下水道意識調査実施	川辺
	一九七八	昭和五三	文化財保護条例改定	川辺
	一九七八	昭和五三	稲作転換事業開始	川辺
	一九七八	昭和五三	イチゴハウス団地竣工	比久見
	一九七九	昭和五四	川辺北小学校校舎竣工	中川辺 上川辺

時代	西暦	和暦	事項	地区
昭和時代	一九七九	昭和五四	広報かわべ、全国コンクールで第一位の栄誉受賞	川辺
	一九七九	昭和五四	町議会議員選挙	川辺
	一九八〇	昭和五五	川辺中学校と名称変更	中川辺
	一九八〇	昭和五五	川辺西小学校と名称変更	中川辺
	一九八〇	昭和五五	川辺東小学校と名称変更、翌年新校舎竣工	比久見
	一九八〇	昭和五五	山楠野球場竣工	西栃井
	一九八〇	昭和五五	第一回産業文化祭開催	中川辺
	一九八一	昭和五六	町長選挙・遠藤稔無投票当選	川辺
	一九八一	昭和五六	中央公民館竣工	中川辺
	一九八二	昭和五七	加茂郡教育研究所設置	下麻生
	一九八二	昭和五七	中央公民館に図書室開設	中川辺
	一九八三	昭和五八	町議会議員選挙無投票	川辺
	一九八三	昭和五八	新山川橋竣工	石神
一九八四	昭和五九	川辺中学校校舎竣工	比久見	
			中川辺	

歴史年表

時代	西暦	和暦	事項	地区	
昭和時代	一九八四	昭和五九	川辺海洋センター竣工	比久見	
	一九八四	昭和五九	川辺郵便局新築移転開局	中川辺	
	一九八五	昭和六〇	中川辺・下麻生両駅無人化となる	中川辺	
	一九八五	昭和六〇	可茂農業共済事務組合設立	下麻生	
	一九八五	昭和六〇	町長選挙・遠藤稔無投票当選	比久見	
	一九八五	昭和六〇	町議会議員補欠選挙	川辺	
	一九八七	昭和六二	庁舎・保健センター竣工	川辺	
	一九八七	昭和六二	川辺町合併三〇周年記念式典	川辺	
	一九八七	昭和六二	町民憲章制定	川辺	
	一九八七	昭和六二	町議会議員選挙	川辺	
	一九八八	昭和六三	東アジア漕艇国際大会開催	中川辺	
	平成時代	一九八九	平成一	川辺第一保育園竣工	中川辺
		一九八九	平成一	川辺麻生郵便局新築開局	下麻生
		一九八九	平成一	町長選挙・遠藤稔当選	川辺

時代	西暦	和暦	事項	地区
平成時代	一九八九	平成一	第一回マリンスポーツカーニバル開催	中川辺
	一九九〇	平成二	防災行政無線システム導入、戸別受信機設置	川辺
	一九九〇	平成二	ダム湖周辺整備事業構想なる（ふるさと創生事業）	川辺
	一九九〇	平成二	大谷公園竣工	川辺
	一九九一	平成三	社会福祉協議会法人化となり新発足	川辺
	一九九一	平成三	全国ボートサミット開催	川辺
	一九九一	平成三	町議会議員選挙	川辺
	一九九二	平成四	下水道幹線工事開始	川辺
	一九九二	平成四	学校週五日制実施	川辺
	一九九三	平成五	やすらぎの家・かわべ夢広場竣工	川辺
	一九九三	平成五	美濃加茂農業協同組合合併により、川辺・上米田支店と名称変更	中川辺
一九九三	平成五	町長選挙・遠藤稔無投票当選	比久見 川辺	